

# 議会広報常任委員会視察報告

議会広報常任委員会では、去る5月16日及び17日の2日間、岡山県久米郡美咲町、岡山県津山市を訪問し、次のとおり視察を実施しました。

## ○ 視 察 日

令和4年5月16日（月）、17日（火）

## ○ 視察地及び視察目的

### 1 岡山県久米郡美咲町（報告書P1～）

（1）議会だよりの編集について

（2）動画配信について

### 2 岡山県津山市（報告書P11～）

（1）議会へのお便り・意見募集方法について

（2）動画編集作業について

## ○ 視 察 者

飯山直樹委員長、鈴木道子副委員長、山田由美委員、金崎ひさ委員、  
荒井直彦委員、土佐洋子委員、窪田美樹委員（随員 保永主任）

## ◇岡山県美咲町視察概要（5月16日）

### 1 美咲町の概要

美咲町は、平成17年3月22日に中央町、旭町、<sup>やなはら</sup>柵原町の3町が合併して誕生しました。

岡山県のほぼ中央部に位置しており、県北部の中心都市である津山市の南部

に位置しています。

総面積は 232.17 ㎥で、その約 6 割を山林が占め、東に吉井川、西に旭川の県下 3 大河川の 2 河川が流れ、美しい田園風景がいっぱいの自然豊かなまちです。人口は約 13,200 人です。

町の中心は旧中央町の駅舎がカメの形の JR 亀甲<sup>かめのこうえき</sup>駅周辺であり、町役場や商店、公共施設が立地しています。主な産業は米、ナシやブドウなどの果樹、養鶏などで、中央部には「日本の棚田百選」にも選ばれた棚田があります。棚田や養鶏場があること、さらに、町出身の岸田吟香が愛好したことから、卵かけごはんの町としても知られているそうです。その他、桜やつつじの名所として有名な三休公園、自然体験公園・まきばの館、鉄道の廃線を活用し展示運転が行われている柵原ふれあい鉱山公園といった諸施設があります。

## 2 視察概要

### (1) 議会だよりの編集について

美咲町の議会だよりは平成 17 年 8 月 10 日創刊されて以来、全国町村議会議長会の実施する町村議会広報全国コンクールにおいて、平成 21 年度・27 年度に奨励賞を、令和元年度に優良賞を受賞しています。定例会ごとに発行しており、発行日は定例会翌々月の 10 日と決まっているとのことでした。編集は美咲町議会広報特別委員会委員が行っており、委員は議員のうち「意欲のある者 6 人」として任期の初めに選出しているそうです。

各号発行に係る編集のための委員会は平均 5 回程度の開催となっており、定例会最終日に第 1 回目の委員会を開催してその後の編集日程の決定を行い、第 2・3 回目には原稿の読み合わせや写真の選定を、第 4 回目にはキャプションや見出しの設定と表紙写真の検討など、第 5 回目には修正箇所最終確認とを行う、という流れで編集しているとのことでした。

特に次のようなことに気を付けて作成している、というお話がありました。

- ・見やすく、分かりやすく、簡潔な文章
- ・行政用語や難しい熟語などは使わない。
- ・写真をたくさん使う。
- ・空間を取り、見て疲れない紙面づくり
- ・内容が分かるよう見出し
- ・写真のキャプションは、読み手に興味が沸くようなものにする。
- ・議会だよりに親しみを持ってもらうため、町民参加のページを作る。

まずは町民の興味を引く、読んでもらうことを考えており、掲載写真の撮影や収集、編集機器の整備を今後進めていきたい、とのことでした。

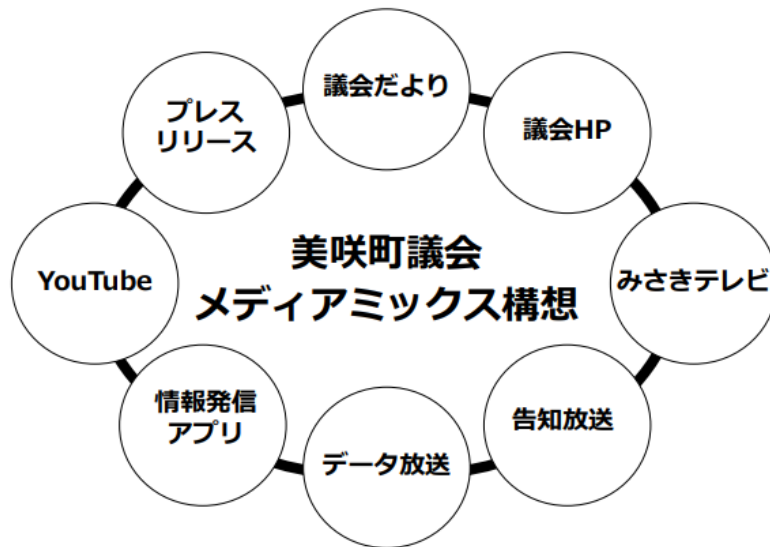
## (2) 動画配信について

美咲町では、令和3年より「美咲町議会メディアミックス構想」として、議会だより・議会ホームページの他、みさきテレビ、告知放送、データ放送、情報発信アプリ、YouTube、プレスリリースといった多様な手段で積極的に発信をしていくことで、デジタルデバイドのない議会を目指して取り組んでいるそうです。

その中でも、みさきタウンテレビジョンと連携してさまざまな動画の発信に力を入れており、会議の様子だけでなく、視察や研修、意見交換会などさまざまな場面で動画の撮影を行い、YouTubeで発信をしています。

動画の発信については、美咲町としてみさきタウンテレビジョンと契約しているため、議会としても活用しているとのことでした。発信する動画の原稿については美咲町議会広報特別委員会で作成しており、動画の撮影・編集やナレーションについては、みさきタウンテレビジョンの方が行っているとのことでした。

発信した動画については美咲町議会のホームページからも閲覧することができます。



美咲町議会メディアミックス構想イメージ

### 3 委員所感

#### <飯山直樹委員長>

第1日目は美咲町役場に訪問し、同町議会広報特別委員会より議会だよりと動画配信について説明を受けました。

美咲町は岡山県中部に位置する人口約1万3千人の町で、農業が主要な産業であり、特に養鶏では西日本最大級である。養鶏が盛んなことから卵かけごはんの発祥の地となっています。

議会広報特別委員会所属の委員は現在6名で任期中変わらず、広報作成に意欲のある方が担うというユニークな編成手法です。

発行する議会だよりは町民への一方向への情報発信だけではなく、議会だよりのなかでアンケートを掲載することで、コミュニケーションツールとしての役割を持たせようとしています。当委員会においては町民の方々とのコミュニケーションについて、SNSの活用などが検討されているが、紙媒体での双方向のやり取りについて、参考になる取り組みです。

また同町議会では議会だより発行に合わせ、議会だよりの動画配信の制作・配

信を行っています。美咲町には町独自ケーブルTV局であるみさきTVがあり、この動画は同TV局のニュースとして作成されたものであるため、撮影・編集等の技術はプロ作成の非常に優れたものであり、またニュースとしてTV局が放送するものでありパブリシティーではないため費用はかかっています。TVで放映したものをそのまま譲り受け、YouTubeの独自チャンネルにアップしています。

放送内容は議会だよりの動画版的なものであるが、議会広報特別委員会の委員が出演し、2常任委員会にも所属する委員が各パートを担当しています。

さまざまな媒体による情報発信は当委員会の課題であり、動画配信については技術的に同委員会のような高度なものは出来ないが、今後は議会だよりに合わせて議会報告動画を作成し配信していけるよう取り組みます。

#### <鈴木道子副委員長>

美咲町は、岡山県の中央部北に位置し、人口13,000人、面積232,17km<sup>2</sup>、吉井川と旭川が流れ、山間地となだらかな平坦地が続く気候穏やかな地域です。農林業が主で、水稻・野菜・果物の生産、また畜産も盛んです。

議会だよりの編集については、葉山町とほぼ同様に、全体の構成・選定・作成を議会広報特別委員会で行っています。レイアウト・字のフォント・色使いなどは、委託業者からの提案を受け委員会で協議しています。

校了までの文章校正、レイアウト修正・キャプションや見出しの作成、掲載写真決定など、委員会で決定することは葉山町と同様です。

しかし、写真のキャプション(特に一般質問)について、質問の意思が表現されているようなものになっていることが、写真そのものに動きが感じられて、町民読者の関心を呼ぶ一助となり得る要素でもあると思いました。我が町でも、取り入れる項目と考えます。

裏表紙記事の「町民の皆さんこんにちは」は、第1回が放課後子ども教室を、紙面3分の1を使った写真と共に、活動内容が問答形式で記述されています。写真・文章両方で教室の内容と雰囲気がよく表現されていて、町内各種団体の活動内容

と特徴を周知する効果と、また町民全体がその活動を身近に感じられる要素も含まれていると思われ、参考に取り入れたい紙面です。

町民アンケート返送についての返送費用は、5万円とのことで、町民に対し、議会との双方の意思疎通としても一定の期間ごとに実施する必要性も感じました。

動画については、美咲町のケーブルテレビ局で撮影・編集を行っています。議会だよりの案内動画は議会広報特別委員会の全員で出演し、シナリオは委員長が作成しています。視覚の分野がますます拡大するであろう状況を展望すると、葉山町としても、取り入れていきたい動画制作です。

#### <山田由美委員>

3年ぶりの視察受け入れだそうで、松島啓議長にご挨拶頂き、議会広報特別委員会の皆様にもたいへん歓迎して頂きました。美しい緑の山に囲まれた町で、駅が庁舎の至近にあるのがうらやましいところです。庁舎移転が決まっているようですが、既に幹線道路沿いの用地が確保されていて、その背後には広大な運動公園があり、非常に恵まれた環境だと感じました。

町営のケーブルテレビがあり、同じ建物の中に循環バスの待機所もありました。時間がなくて、日本の棚田百選に選ばれた、素晴らしい棚田が見られなかったのが残念です。

美咲町の議会だよりは町村議会広報全国コンクール受賞歴が複数回あり、表紙と裏表紙はカラー、中身は2色刷り、5800部で年4回の発行（定例会の翌々月の10日）ということです。表紙は子どもがテーマと決まっていますが、内容がわかる見出し、興味を惹くキャプション、町民参加のページ作りなど、意欲的に取り組んでおられます。この5月からは、10人以上の希望者が揃い、会場が確保できれば、出前議会も実施する予定だそうです。

編集作業もペーパーレスで、タブレット上で修正を入れていくそうで、まだ紙に印刷してから手直ししている葉山町議会は、少し遅れているのかもしれませんが。

昭和世代の私などは、どうしても、タブレットの画面より紙の方が馴染みがよいのですが。

美咲町議会ではメディアミックス構想を立ち上げ、ホームページ、みさきテレビ、告知放送、データ放送、ユーチューブなど、さまざまな手段で情報発信を試みています。特に、ホームページで議員の抱負を語る動画を公開しているという点は、素晴らしいと思います。葉山でも、当選後に各議員が抱負を述べる動画があれば、町民の皆様にも興味を持って頂けるのではないのでしょうか。

また、委員の皆様は、葉山の議会だよりについても積極的な質問をしていただき、有益な時間を過ごすことができました。葉山では、写真に付けるキャプションは客観性を重視していましたが、「思いを込めたキャプションもあり」だということを知りました。視覚障害の方のための「音声データ」としてのキャプションと、インパクトを狙ったキャプションは、別に考えてもよいのかもしれませんが。

「若い人は紙媒体を手にしてくれない」という指摘が葉山側からありましたが、今後はSNSをどう活用していくか、全国共通の課題だと思います。新聞すら衰退していく中、どのようにして公共への関心を引き起こすか。これは、日本の将来にも関わることです。各自治体もラインやインスタグラムなどの活用を始めていますが、議会はそれに便乗するのか、それとも独自に発信するのかなど、色々と考え、試行錯誤していかなくてはなりません。

#### <金崎ひさ委員>

16日は久米郡美咲町を訪ね、動画配信等のことを伺いました。美咲町議会だよりは町村議会広報全国コンクールの奨励賞を2回、優良賞を1回受賞されています。対面での視察は久々なので、細かいことまで伺うことができ、今後の議会だより編集の参考になりました。特に使用した写真のキャプションが工夫されており、葉山町との差異を感じました。そして、町民参加のページは必要であると思いました。

また、議会ホームページに掲載されている動画配信について詳しくお聞きしま

した。紙ベースでは手に取ってもらえない若者層にアピールするためにSNSの活用は必須です。とても参考になりましたので、持ち帰り、葉山町でも取り組む検討をしたいと思いました。

#### <荒井直彦委員>

令和3年4月11日に選挙が実施され、15名が戦い、14名が現在の議員定数。美咲町議員の14名の内、議会広報特別委員会はやる気のある議員で構成されている。

議長が発行責任者であるが、委員には、副議長（3期）、議会運営委員会委員長（4期）等議会の中心人物もなり、委員長も1期目の新人議員が選任されて運営をされていた。

事前質問においても丁寧な回答をいただいていた。

今回の視察で動画制作費用はかかっていない事、また、この動画配信に関しては、やる気の委員があつまれば、近い将来に葉山の議会でも取り入れることが可能と思いました。

先方との質疑の中で、次の質問がありました。葉山の議会だよりの表紙に、ローマ字でGikaiの記載があったが、その経緯を聞かれ、また、表彰を受けていたことも気になっていたと質問があり、丁寧に回答をさせて頂いた。会議終了後、その質問者との会話では、本人が9年間もパリで画家として住んでいた関係で興味があった、との事。

#### <土佐洋子委員>

これまでに岡山県美咲町議会の議会だより「みさき」は町村議会広報全国コンクールで、奨励賞や優良賞などを受賞されているということで視察に伺いました。議会広報特別委員会の体制として面白いのは意欲のある者、6人が任期初めに委員に就くということです。委員報酬として、年額で委員長が5万円、副委員長・委員が4万円です。

編集にあたっては、見やすくわかりやすく簡潔な文章。行政用語や難しい熟語



などは使わない。写真を多めに空間をとり見て疲れな紙面作り。興味をひく写真のキャプションというのは、葉山町議会とはまったく違うところです。

表紙の写真は編集の最後に決めるそうですが、表紙の作成は「表題」「目次」を意識して、被写体を真ん中に配置した撮影を心がける。目次は、注目すべき記事の内容を15文字以内にまとめ、3～4行で掲載する。写真のキャプションは7文字の文章×4にするとゴロが良いそうです。

バックナンバーをいつでも手に取れるのも良いかもしれないと感じましたが、かなり多めに発行をされているのだと思います。

動画配信については、YouTubeにて「議会だより最新号」、議会政策研修会、議会議員交流会の様子、美咲町議会が全国町村議会議長会 特別表彰を受賞したことなどが配信されています。また、わたしたちの議会広報常任委員会が視察した様子を撮影した動画が、数日後にケーブルテレビで放送され、さらにYouTubeにもアップしていただきました。若年層の方々が紙ベースの媒体を手にとらないということがありますが、このようにYouTubeを使えば、多くの皆様に見ただけなのかと感じ、iPadを使ってできることから葉山町議会でも取り組んでいきたい。

視察研修の意見交換では、議会だよりの編集方法や議会ホームページ作成方法についてなど、フリップに質問を書いて行い議会の強化に努めるようお互いに意見交換が行われました。

また、町村議会議長・副議長研修会にて、美咲町議会の正副議長にお会いし、ぜひ葉山町議会に視察に訪れたいとのことでした。

#### <窪田美樹委員>

美咲町議会ホームページには、議会だよりPR動画が掲載されています。動画は、議員が出演し議会だよりの内容を字幕付です。どのように動画作成・配信されているのか、また、町村議長会全国広報コンクールで岡山県内初入選された議会だよりの編集について学ばせていただきました。

美咲町では、これまでの議会視察とは違い視察交流会と位置づけられており、葉山町議会側からの事前質問事項に回答を頂きながら、美咲町議会広報特別委員会委員の皆さんからも質問を受ける進行でした。これによりお互いを深掘りできた学びに繋がると感じました。

議会だよりでは、興味を引く写真のキャプションに気を付けているとのこと。葉山では何の写真か分かるキャプションを付けていますが検討できる部分です。町民参加のページづくりでは、葉山町では原稿を寄せていただける町民の方がなかなかいらっしゃらず、参加していただける企画づくりの一つとして議会が取材に出向く事も進めて行けたらと感じました。葉山町は「町民との会議」として申込みを受けています。葉山町との人口規模の違い（美咲町約 13,200 人）はありますが、「美咲町議会だより 68 号」では「出前議会申込書」を議会だよりに添付配布し、積極的な出前会議を企画していました。

動画作成では、美咲町庁舎横にある「みさきタウンテレビ（美咲町ケーブルテレビ局）」が行ない、YouTube にはその動画をアップし議会ホームページに掲載していました。撮影して貰いたい場面や、議会が PR したいトピックは取材依頼をして放送しているそうです。動画作成には費用はかかっていませんでした。プロによる動画作成でしたが、議会広報特別委員会がシナリオ作成し配役も決めていたとのこと。葉山町ではケーブルテレビ局を持っていないので、議員による撮影等を行なっていけたらと思います。

議会広報特別委員会委員 6 人中 4 人が新人議員という事ですが、新たに「美咲町議会メディアミックス構想」を進めながらデジタルデバイト（情報格差）のない議会を目指されていました。美咲町議会広報特別委員会委員に、他の委員会にはない年間 4 万円の報酬が支給されています。委員として活動日の多さからくるものでしょうか。意欲的に活動されている美咲町議会広報特別委員会の皆さんでした。

葉山町でもさまざまな工夫・情報発信を行ない、開かれた議会・町民参加のま

ちづくりに繋げていきたいと考えます。



みさきタウンテレビ撮影の様子（飯山委員長）



美咲町議会視察の様子

## ◇岡山県津山市視察概要（5月17日）

### 1 津山市の概要

津山市は、岡山県の北部、津山盆地とその周辺から成り立っており、北は鳥取県と接しています。古くから美作地域の中心であり、和銅6年(713)の美作国成立時には現在の津山市総社に国府が置かれました。江戸時代には津山城の城下町となり、当時の遺構や古い町並みも残っています。

市制施行は昭和4(1929)年、現在の津山市は平成17(2005)年2月28日に、旧津山市・勝田郡勝北町・久米郡久米町・苫田郡加茂町・苫田郡阿波村が合併して誕生しました。

津山の名前の由来は、津山藩初代藩主の森忠政（織田信長の小姓 森蘭丸の弟）が津山盆地中央の鶴山（現在の鶴山公園）に城を築き、それを津山と改めたのが始まりとされています。

人口は約98,000人です。津山市議会事務局の方のご説明の中で「桜」「B' z

の稲葉浩志氏の出身地」「肉料理」という3点についてぜひ知っていただきたいとお話がありました。庁舎1階には「B' z」の大きなパネル写真があり、観光で見に来られる方もいらっしゃるそうです。

## 2 視察概要

### (1) 議会へのお便り・意見募集方法について

議会へのお便りは、津山市議会の広報紙「みんちゃい」の裏表紙に掲載している「みんちゃいクイズ」を通して行っているそうです。クイズと議会だよりへの感想を回答してもらうもので、応募方法ははがきとインターネットの2種類があります。インターネットによる募集については昨年度から開始したそうですが、応募数が倍になり、若い世代からの応募も増えたとのことで、多い時には90件を超えることもあるそうです。「みんちゃいクイズ」では正解者の中から10名に図書カードと温泉無料入浴券（指定管理の温泉施設）をプレゼントすることで、議会だよりを読んでもらうきっかけとなるように取り組んでいるとのことです。

つやま市議会だよりを「みんちゃい」にすることによって、多くの人に親しみやすいものとしていて、最近ではかなり名称が定着してきたそうです。また、表紙写真については市内の高校4校の写真部にそれぞれ担当号を割り振って提供してもらっているそうです。

### 第25回 みんちゃいクイズ

締切は 令和4年6月20日(消印有効)

次の2問にご回答ください。

**問①** 津山市の令和4年度当初予算の総額は？  
➡ ○○○億3,900万円

**問②** 次回執行される津山市議会議員選挙の議員定数は？  
➡ ○○人


**正解者の中から抽選でプレゼント**

- A.図書カード(500円) 5名様
- B.あば温泉無料入浴券(5枚) 5名様

当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

● **ハガキで応募**  
ハガキに「①答え(2問) ②議会だよりの感想 ③議会への意見 ④住所 ⑤氏名 ⑥年齢 ⑦性別 ⑧プレゼントの希望(AまたはB)」をご記入の上お送りください。  
[宛先] 〒708-8501 津山市山北520  
津山市議会事務局あて

● **インターネットで応募**  
右の二次元バーコードを読み取ると「みんちゃいクイズ応募フォーム」につながりますので、必要事項を入力の上応募してください。



つやま市議会だより「みんなちやい」105号掲載の「みんなちやいクイズ」

## (2) 動画編集作業について

津山市議会の動画配信「市議会スタジオ」は、令和3年11月18日より運用を開始しています。動画の編集は、議会事務局の方がiPadのアプリであるiMovieを使用して行っており、予算をかけずに開始したそうです。

開始の理由としては3つの要素があるそうです。まず、令和3年2月にタブレットを導入したこと、そして同じ月に行った市民アンケートから議会の傍聴したことがない市民からの否定的なご意見の方が多いとわかったこと、最後に、声の広報の代替となる媒体として導入できないか、という意見が出たことだったそうです。

運用としては広報調査特別委員会で企画・製作を行っており、なるべく多くの議員が出ること、年間12本の動画を配信することを心掛けて取り組んでいるとのことでした。出演議員が偏ることがないように、会派ごとに当番制とし、順番はタブレットにくじ引きアプリをインストールして決めているそうです。また、配信が滞ることがないように、ギカイラジオ（声の広報をアレンジしたもの）、議会日程のお知らせ、お便り紹介動画をレギュラー番組としており、レギュラー動画以外にも、必要に応じて正副委員長と協議の上配信できるようにしているそうで、過去に1度イレギュラーで配信を行ったことがあるそうです。

動画編集の際の工夫として、説明のスライドを動画の中に入れる、字幕を付ける、動画はなるべく短くする、という3点を意識しているそうです。

開始したばかりのため、実際の効果や反応が出てくるには時間がかかりますが、現状の課題は視聴者数が伸びないことということで、チャンネル登録者数からはまだ配信の効果が見えてこないそうです。「長い」「固い」「工夫がない」などの声もいただいているとのこと、企画やサムネイルの工夫や動画を簡潔

にまとめることに力を入れていきたいとのことでした。

### 3 委員所感

#### <飯山直樹委員長>

第2日目は津山市役所を訪問し、同市議会が発行する議会だよりみんちゃいについて、および議会報告の動画配信について事務局担当者から説明を受けました。

津山市は岡山県第3の都市であり、人口は約10万人。城下町として発展した歴史がある街です。

みんちゃいとは見てくださいの岡山弁とのことで、広報で取り組まれている住民とのコミュニケーションや動画配信などの一連の企画の発端は、議会で行われていることを住民に知ってもらうために何をすべきか、に対する担当者が現時点で実行できることを形にしたものと言えます。

一般的に町村では議員自らが広報紙の作成を行っているようだが、市議会では議会事務局の担当が作成するが、同議会でも媒体作成実務はほぼ全て事務局担当者が担当しているようである。同市議会のように先進的な取り組みが可能となる根源的な理由は、事務局担当者に十分な裁量を与えられているからであることが、今回説明を行って頂いた担当者から明確に伝わってきました。

住民に知ってもらうこと、その先にあるコミュニケーションは同議会として目指しているものであり、現時点での施策は、まずメディアミックスによってその実現を目指したものである。動画については閲覧数の低下などのマイナスの結果も出ているが、それに対してどのような手を次に打つべきかを自由な発想で取り組んでおり、コンテンツの質を上げることはもちろんのこと、情報回転数を上げることや、SNSも使った手法などさまざまな企画に取り組もうとしています。

当委員会には十分なマンパワーがないが、まずは簡易な動画配信による議会報告から始められるよう取り組みたいと思います。

#### <鈴木道子副委員長>

津山市は、岡山県北部の美作地方および津山圏域の中心都市です。北部・西部を中国山地、東部を美作台地、南部を吉備高原に囲まれた面積 506.33 km<sup>2</sup>、人口 98,185 人の市です。

城下町津山は、織田信長の小姓であった森蘭丸の末弟、森忠政が 1603 年に入封したことから始まりました。津山川の治水工事や城下への浸水防止のため、堅固な石垣を作り、美濃国から忠政に従う者が住み始めたそうです。森家はその後、4代、95 年間にわたり統治しましたが、1697 年に除封。その後は 172 年にわたり松平家が版籍奉還まで統治したそうです。

日本の近代化に貢献した津山藩医の宇田川玄随・宇田川玄真・宇田川榕菴、またペリー来航時に米大統領親書を翻訳し、対露交渉団の一員として長崎に出向いた箕作阮甫などを輩出しています。

きめ細かな素材の風合いを持つ横野和紙、津山箔合紙、岡山県郷土伝統的工芸品に指定されている美しい作州緋など文化的作品でも有名です。津山ブランドの、つやま和牛は、平成 26 年から肥育が始まっています。森と共に生きる、環境共生都市として、地域木材の利用促進や間伐材を利用したバイオマス産業都市を進め、美作材のブランド化にも取り組むなど、海外輸出も視野に入れた需要拡大策も進めているそうです。

セールスポイントは、「桜(春は津山)」・「B, z 稲葉浩志の出身地」・「肉料理」だそうです。

つやま市議会だよりは「みんちやい」の愛称で、年 4 回の発行です。動画配信のきっかけは、市民アンケートの結果で、見ている人は好意的であるが、見たこともないのに否定的な傾向だとの結果を受けてだそうです。また、視覚障害者の方へ、声の広報の提案があり、令和 3 年にタブレット端末が全議員に導入された事もきっかけとなりました。タブレット端末を活用して市民に議会を見てもらい、知ってもらい、関心を持ってもらう。その為に、新しいコンテンツを作るが、予算を伴う業者への委託ではなく、自分たちで作る、自分たちで配信してみようと

の結論に至りました。そして、資料閲覧や連絡手段だけでなく、議会活性化として動画撮影にも、タブレット端末を活用しようということになりました。

津山市議会事務局ソーシャルメディア運用方針を変更し、津山市議会の広報に関するもの、の項目を加え、チャンネル名も、市議会スタジオ、としました。従前は本会議映像の配信のみを想定していましたが、さまざまな動画の配信を可能としました。

運用の基本事項は、

- ① 広報調査特別委員会で企画し作成する。
- ② なるべく多くの議員が出演する。
- ③ 年間 12 本(平均月 1 本)の配信を目指す。

として、令和 3 年 11 月にまずはやってみようと運用開始したものです。

運用方法は

- ① 広報調査特別委員会で配信予定表を作成—広報調査特別委員会で向こう 3 ヶ月の配信動画 について「内容・出演者・狙い」などを定めた配信予定表を作成
- ② 配信予定表をもとに動画を撮影—配信予定表で定めた内容に基づいて、出演者と事務局で iPad を活用して撮影。撮影場所はマイク設備や照明が整っている議場を活用
- ③ 動画の編集作業—事務局が編集作業を行う。編集ソフトは iPad に搭載されている機能を使用(無料だが機能が少ない難点がある)
- ④ 正副委員長の確認を受けて完成、配信—正副委員長と出演者で内容の確認。全議員に配信のお知らせと広報のお願い。配信。津山市の公式 Facebook と LINE に配信のお知らせ。

以上の、撮影から配信まで 1 週間程度かかります。

工夫事項は、

- ① レギュラー動画を決めておくこと。



- ② 出演議員が偏らないように、出演者には根拠を持って決めておくこと。
- ③ 臨機応変な情報発信を行うために、配信予定表以外の動画も正副委員長と協議の上、作成配信できるようにしておく。

運用方法として編集作業上の工夫は、

- ① 説明用のスライドなどを入れながら、映像だけである程度内容が入ってくるように工夫する。
- ② 同様の理由で、字幕を付ける。
- ③ 長い動画は見られない。なるべく短く、現在は5分～10分の動画だがもっと短いほうが良い。短いほうが見られやすい。

今後の課題は、開設前の令和2年と令和3年(開設前と開設後)を比較すると視聴者数が伸びていないどころか、むしろ減っている状況が見えたことから、まずは、チャンネルの存在を知ってもらうことから始めるとのことでした。視聴者増加の可能性を秘めている議員にもっと、PRをしてもらうことを要請すること、またどのような動画が見られているかなど、動画配信の勉強や、企画内容、演出の工夫が必要とのことでした。

議場で録画をするととなると、葉山町の本会議場は、音響設備などの老朽化もあり、抜本的な改造が必要になる懸念があります。

しかしながら、我々、議員や職員が出演して、議会や行政の日常が映像配信されることは、町民の皆様にも身近な町政を感じていただける大いに効果的な手段であるとも、感じました。

津山市議会だよりの各議員の一般質問記載写真のキャプションは、美咲町議会広報と同様に、質問内容の意思を含んだものであることが、印象に残りました。同様な、意思と動きのあるキャプションを目指していきたい思います。

町民、特にこれから葉山町を担っていく若者に政治への関心を深めてもらえるような広報を目指して議員全員で知恵と力を尽くしてまいります。

<山田由美委員>

津山城跡のある鶴山公園や、山々の間をゆったり流れる吉井川、津山まなびの鉄道館などがある人口9万8千人の市です。森蘭丸の弟である森忠政が作った城下町だそうで、歴史を感じられる街並みでした。

津山市議会では令和3年11月に市議会スタジオの企画を立て、運用を始めたということで、その経緯や課題などを、主に議会事務局の井口琢朗氏から伺いました。

令和3年2月の市民アンケートの結果、市議会を実際に見たことのない人には、市民の声が反映されているかどうかに対して、否定的な印象が強いということがわかったそうです。また、多くの方が、傍聴未経験だということもわかりました。それならば、もっと市民に積極的に広報しようということで、議員が登場する動画を作成することにしました。

「みんちゃい」という議会だよりのクイズに応募した方のご意見に回答すること、なるべく多くの議員が登場すること、年間12本の配信を目指すこと、議場で撮影して編集は事務局が行うこと、費用はほとんどかけずに済んでいること、などを伺いました。

今は多様なコンテンツが増えているため、「ユーザーの時間の取り合いになっている」状況ですから、動画はなるべく短くまとめないと、見てもらえないようです。いかに短時間で、魅力ある発信をするかについては、今後の大きな課題となります。現状ではまだ視聴数が伸びていないので、議員個人に宣伝してもらったり、動きのある動画作成（傍聴の手順を道案内していく様子とか）を検討するなど、色々と模索中ということでした。

葉山町議会でもSNSの利用を検討しましたが、誰がどう更新していくのか、問い合わせなどにどう応じるのか、困難が多くて見送った経緯があります。ですが津山市では「まずは、やってみようや!」という掛け声で始めたということでした。

やってみて、走りながら改善していくというのは、非常に前向きです。「みん

ちゃいクイズ」も、葉書だけの時は応募数が少なかったのに、ネット応募も可能にしたら、ぐんと増えたそうです。若い人に訴えるためには、新たな手段を試みる事が重要だとわかりました。試みても、うまくいくとは限りませんが、その反応を見ながら、また次の挑戦をしていくしかないのだと思います。

葉山町で試してみるとしたら、補修の必要な町道や、危険な通学路、ベンチの足りない公園など、各議員が問題と思う箇所を現場でレポートするような動画はどうでしょうか。

#### <金崎ひさ委員>

17日は津山市を訪ね、「市議会スタジオ」について伺いました。「市議会スタジオ」とは市議会のさまざまな動画を配信し、多くの市民に議会に関心を持ってもらうためのツールです。費用はかけず、議会の手作りで、広報調査特別委員会が企画・作成し、なるべく多くの議員が出演、月1本の配信を目指しています。

つやま市議会だよりは「みんちゃい」というタイトルで発行しており、「みんちゃい」は方言で「見なさい」という意味です。表紙は市内の高等学校の写真部等の協力を得て、市民に手に取ってもらえる工夫をしていました。

議会広報常任委員会の視察を終えて、選挙投票率の低下に示されるように、議会および議員の役割をもっと広くお知らせし、多くの皆様に関心を持っていただくという大切な役割を担っていることを再認識しました。今後の委員会では、そのことを基本に議会だよりの編集に携わりたいと思います。また、両市町のように、SNSの活用を探りながら、議会改革に取り組みなければならないと意欲の沸く、有意義な視察でした。

#### <荒井直彦委員>

今回の視察で判明したことは、議会事務局に嘱託で24年間勤務されている方が担当で在籍されていること、また、職員の中に動画編集等IT関係にすぐれた知識・技術を持った人材を抱えていることが判明した。会議終了後のお話では、議会事務局の人数は減らされ、基本定数は15名に対し、現在は8名で運営して

いる。昨年まで9名だったとのことでした。また、議会だよりの「みんなの」のことばは、現副議長が提案し、そのまま継続されているとのこと、ことばの意味は、「みなさい」という意味。また、動画配信の登場委員2名の選出方法は、アプリのルーレットで決めていて、今まで、問題はなかった。今回の視察では、葉山町に置き換えると議会事務局員の人数が、現状のままでは、無理があると思いました。

### <土佐洋子委員>

まず初めに津山市でこれだけは覚えてくださいというセールスポイント「桜（春は津山）」「B' z 稲葉浩志の出身地」「肉料理」をお話されました。稲葉浩志さんのご実家は化粧品屋さんで、週末になると多くのファンが集まるそうです。

なぜ動画配信を始めたかの理由として、100人～200人で良いと思っていた市民アンケートで762人からの回答を得たが、議会に対する関心の低さが数字として表れた。市議会を傍聴または動画傍聴したことがある人は、「反映されている」「少しは反映されている」と回答しているのに対し、傍聴をしたことがない人は、見たこともないのに否定的であること・・・もっと見てもらう必要性を実感し、まずは知ってもらう、関心を持ってもらうことから、新しいコンテンツを作ってみようということになった。声の広報の導入について提案があったが、一般的な業者に委託する方法では予算がかかってしまうので、自分たちで作って、自分たちで配信してみようという発想です。議会の活性化を目的に導入されたiPadを、他に何か活用することはできないかということで、動画撮影に使うことになった。これらの理由により、YouTubeで動画配信をしよう！となり、津山市議会事務局ソーシャルメディア運用方針の変更をして、市議会スタジオ運用開始となった。まずはやってみようという気持ちで大切で、スモールスタート、新たな費用はほぼゼロで議会の手作りです。失敗してもお金がかかっていないので構わない。運用の基本事項は、広報調査特別委員会で企画し作成する、なるべく多くの議員が出演する、年間12本（月平均1本）の配信を目指すという3点。動画の編集作

業は事務局が行うが、編集は iPad に搭載されている iMovie を無料で使用し、字幕を付けられるそうですが、わたしたちが貸与されている iPad にはそのソフトが入っていないので、確認が必要です。

ぜひ葉山町議会でも YouTube の動画配信をしていきたいです。ですが、議会事務局の職員が葉山町議会は 4 人しかいないです・・・津山市議会さんは倍以上の 9 人です。委員会の委員のスキルアップをしていかないとならないと感じました。

#### <窪田美樹委員>

津山市議会だよりでは、議会だよりに「みんなちやい」と地元の言葉のネーミングをつけ、親しみやすい議会だよりに繋げています。紙面では、広報調査特別委員会で考えた懸賞付（賞品は、予算化されている図書券と市内温泉施設無償提供による入浴券）の「みんなちやいクイズ」と議会に対するお便りをハガキ FAX だけでなくインターネットでも募集し、お便りを回答と掲載することで市民参加の紙面作りとなっています。お便り紹介として動画も作成し議会ホームページで配信しています。寄せられたご意見質問に全て回答はできでいないが、懸賞応募に寄せられたお便りとして位置づけているということでした。

動画では議会だよりの内容を抜粋した「聞いてみんなちやい！ギカイラジオ」を声の議会だよりとして配信しています。全ページを読み上げる声の議会だよりはニーズが不明ということで行なっていなかったこと、議会の活性化を目的に iPad が導入され、動画撮影に使うことも配信に繋がったそうです。動画撮影後の編集は、iPad 搭載の無料ソフトを利用し議会事務局で行なっていました。

動画配信には、配信が滞らないよう予定表を作成し必要に応じて正副委員長と協議の上、作成配信できるようにしていました。動画編集には、説明用のスライドや字幕を付け、映像だけである程度の内容が分かるよう工夫されていました。動画の時間が長いと見てもらえないと、現在 5～10 分の動画を更に短くするよう考えているそうです。

葉山町議会事務局の負担が重くならず、議会広報常任委員会でわかりやすい

動画編集がどこまでできるか、委員の編集スキル等にも関係してきます。iPadの活用も含めて進めていきたいと思えます。

表紙には、地元高校4校の写真部から提供されています。年度当初に各担当号を決め依頼しているそうです。今月の表紙として高校の活動報告が掲載され、高校生も読んでくれる紙面づくりと感じました。葉山町では中学校に美術部さんがあります。生徒さんへの負担も考えながら協力をお願いすることは町民参加に繋がっていただけるのではと考えます。



津山市議会視察の様子



津山市議会議場にて

以上、ご報告いたします。

令和4年6月16日

議会広報常任委員会